



「聖人のみもとに帰ろう」という基本理念のもとに、全山一丸となって営んだ「開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会」は厳かにかつ賑々しく執り行われ、高田派の歴史の中に大きな足跡を刻みましたこと、ひとえに高田派寺院、多くの御同行の御支持の賜物と厚く御礼申し上げます。

本 山を愛する、お一人お一人の活力と信仰で御縁を喜び、結ばれた力強さであったと心より慶びを感じています。

開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会を円成して



護法

第44号

発行
眞宗高田派護法団
福井市花堂南2-10-35
眞宗高田派 福井別院

眞宗高田派専修寺宗務総長
青木眞暁

福井よりの本山へのご参詣の中にも、来山の想いはそれぞれでしょうが、みなさまより共通して感じさせていたいただいたことは、ご開山聖人の七百五十回忌をご縁として、お参りさせていただくことへの喜びであったと思います。

北 風の強い日、私は何となく福井の団参の来山を耳にして、なつかしさと共に、ようこそとの思いをこめて大駐車場へ一人出向きました。そこにはバスが7〜8台エンジンをかけ、今まさに帰途につく直前でありました。

思 えは、今の職責につき、大恩会より今日までが、んばった思い出と共に、福井別院運営の面において、いくたびか福井をおとすれ、本山との絆を大切にしつつ、法主殿の前進的なお心にも助けられ、本山と同格の院号等の発布を行ない、立派に（浄法雨堂）の完成を法主殿共々入佛勤行を行ったことなど、近年の福井別院の心強い立ち上がり、この御同行の方々と共に、この御同行の方々が共々に……と思わず、帰福されるさびしさからあたたか



いなつかしきを感じずにはいられず一人最後のバスの出発まで手を振ってお別れしたことが昨日のように思います。

と うぞ、別院傘下の寺院、御同行におかれては、今まで以上に人間関係を大切に、お互いに仏を信じ、愛をこめて慈しみのこころで別院、さらには本山の護持に歩

まれますことを念じます。

す べての行事が終わり、静けさの中、広い境内を散策するとき、あどきの満開の桜も散り、緑にかこまれた両堂に荘厳さと厳肅さを感じる。共に、賑やかな観光地の本山ではなく、癒やしの時間の流れの中で、決して一人で味わうのではなく、この風景の中に身を置き、御仏の静かな時を過ごす、ここにしかない時間の過ごし方

を覚えます。それは、丁度福井出身シンガソングライター、ヒナタカコさんの、いずこの空・春の花・月・愛の灯等のメロデーによくマッチする境内でもあります。

私 は先日、職員研修で高田派の本山願寺別院を訪れました。そこに浄土眞宗聖典より引用の詩があった。どう

したら本願を求められるのか。このことについて親鸞聖人は、「お念仏を心にいれて申しなさい」と言われたと書いてありました。念仏を心に入れて申すとは、日常生活の中で佛法を聴聞し念仏することであり、

あ れこれと頼りにするのは感謝の心で念仏を申し仏法に照らされて育ちなさい、ということでありましょう。聖人はさらにそのことについて「世の中安穏なれ、仏法ひろまれ」と願うことの大切さを説き、私だけの問題でなく、共に生きる人々との真の平和を願う大切さを示されている。私達の命は、釈迦・弥陀二尊のはたらきにより、支えられているのだから、不確かな心であつても、聖人のみもとに樹つこと、帰ることが出来るのであると、ここにこそ、今回の七百五十年の永い時を越えて、聖人のみもとに帰れるのであると言えるのでありましょう。

はもう八百回御遠忌報恩大法会にはこの地球上にはいない。「千の風」にのって大地をたび回っているのかも知れないけれど、今生きている私は、浄土眞宗の今後のさらなる発展のため、聖人の示す獲信とは何か、それをどう聴聞するのか、時代の改革の中、教団のあり方、経済的基盤、社会的基盤の問題にどう取り組んで答えていくのか、それぞれこれらは別個のテーマですが、親鸞聖人に遡源出来ない寺院の在り方な

ど、容易に方向性を出せるものでもないものの、親鸞聖人とどれだけ時代が違っても、生死無常を生きる現実と同じであり、聖人の求道の原点と高田門徒の歴史の焦点と、現代社会の課題の焦点とを重ね出し、切り拓いていかなければならないのです。ご自身も想定外の人生を力強く生きぬかれ、それを教え示したのが聖人であり、いつの時代も人間の思いを越えた無常な出来ごとは、人の思いで受け止めきれない。

阿 弥陀仏の無条件のはたらきにつつまれて、無常な出来ごとは全く消えて無くなるのではないけれども、生きる中で、心砕けず、柔らかく生きぬいていくことを親鸞聖人は苦惱する現代の私たちに、宛てたお手紙として、受けとめて行く集いでありたいものです。

らなる別院の発展と共に、本山の益々の前進を計るべく努力し、この七百五十回遠忌報恩大法会への、未納の寺院住職、御同行様のご懇志の完納を福井におかれまして、オール高田全てが五十年をお勤めしたのだからという一体感の中、各々ご出金出来る範囲でご送金下さるようお願い申し上げます。

送付先
●ゆうちょ銀行 〇一九店
当座預金 15194
高田派本山専修寺財務部
●百五銀行 一身田支店
普通預金 237
眞宗高田派理財部

就任挨拶

開山聖人七百五十回遠忌と東日本大震災

真宗高田派福井別院護法団々長

珠光寺住職 鳴海 賢昌

この度、分不相応な者が高田派福井別院護法団団長に就任することになりました。歴代の団長の意思を継承しつつ、護法団並びに福井別院の護持発展に微力ながら努めて参りたいと思えます。皆様のご指導ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。今回から「護法」が、高田派別院の更なる護持を願う護法団理事会の思いから、装いも新たにカラー刷りで読みやすくしました。内容については特集を組み福井の高田派末寺々院の歴史と、各任職からの一口法話を入れて、聞法の場合を公開していきたいと考えています。

さて、平成二十四年四月六日から十六日までの十一日間は、真宗高田派本山専修寺において、開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会が厳修されました。東西本願寺並びに各真宗本山でも、同様に大法会が執り行われた意義ある年でありました。

七十五回遠忌法会は、そんな東北、関東地方を中心とした被災地で苦しむ方々や政治、経済の先行きの見えない不透明感に包まれた、子どもから大人まで病んでいる社会状況の中で厳修された事業でした。私たちはこの度の大法会のご縁と東日本大震災からの教訓に学びながら、寺で生きている住職の在り方を考えていかなければならないものと思えます。

護法団理事役員名と担当業務(組別)

(平成24年5月～平成26年5月)

Table with 3 columns: Group Name, Member Name, Position. Includes groups like 一組 (安養院), 二組 (興光寺), etc.

特集 ● シリーズ福井の寺々 第二回 折立山 稱名寺

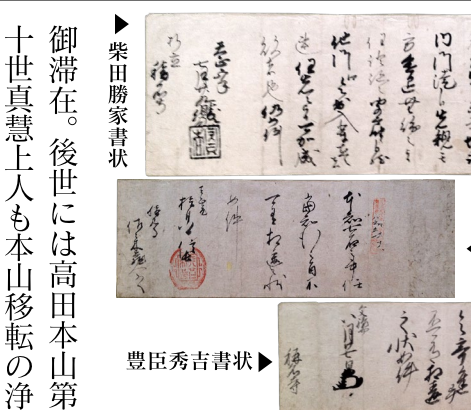
越前高田派 寺院探訪

佐々木三郎盛綱が寛元元年(一二四三)に開いた寺院で境内には桃山時代の華麗な建築様式を取り入れた山門が当時のままの壮麗な姿で現存。越前一向一揆に関する貴重な資料を数多く所蔵する。



拙寺は第五十九代宇多天皇の四男源敦実の末孫、江州粟田城主佐々木源三秀義の三男佐々木三郎盛綱開基の寺と伝えられています。源三秀義は保元・平治の乱で源義朝に従い、三郎盛綱は弟四郎高綱と共に源頼朝の挙兵に参じ藤戸の渡して先人の功をたてたことは『平家物語』に記されている通りです。

寺を開き十六年後の正元元年に往生しました。三年後、親鸞聖人がおかくれになりました。と専修念佛の教えをもって高僧の方々が次々と越前にお入りになります。まず関東の顕智上人が文永元年岐阜県から温見峠・熊河・美濃俣を通り池田に出て拙寺を尋ねられ御滞在になったことが『朝倉始末記』に記されています。また三門徒派本山専照寺をお開きになられた如道上人も顕智上人と同じ道を通られ拙寺に



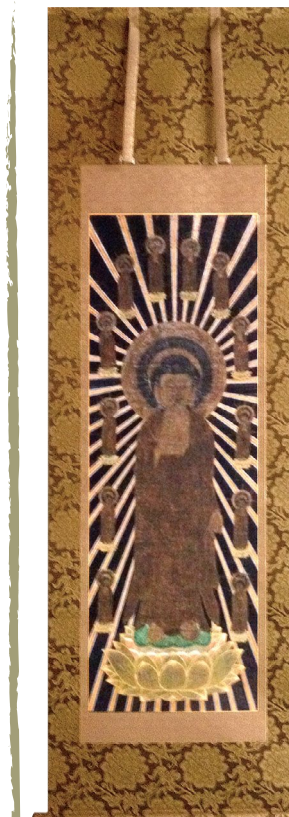
柴田勝家書状, 織田信長書状, 豊臣秀吉書状

三郎盛綱は後に出家し越前に入り、坂井郡木部ノ庄・吉田郡岡保ノ庄西谷にしばらく居住し、寛元元年、今から七百六十九年前に折立に移り拙



さて現在の本堂は元禄二年の完成で三百二十三年目を迎えます。納骨堂は明和八年山門は天明五年、庫裏は元治元年の完成です。七百六十九年前から御同行の方々また近隣の方々を支えられ今日まで存続してきたことは、ただただ親鸞聖人おすすすめの御念佛のおかげに他ならないと思っております。

折立山稱名寺第二十八住職 佐々木 實凌



アクセス 折立山稱名寺第二十八住職 佐々木 實凌 JR美山駅から池田行き京福バス折立下車徒歩1分 北陸自動車道福井ICから車で三〇分

Advertisement for Hisano Hachiro (ヒサノ法衣仏具) featuring Buddhist clothing and supplies.

Advertisement for Daikoku Tenpo (大黒庵茶舗) featuring candles and incense.

Advertisement for Kajiso (かじそ仏壇) featuring Buddhist altars and services.

高田派の青年部ってご存知ですか？

護法団青年部の紹介

青年部部长 本流院衆徒 秦 一心

私達青年部は福井県の高田派寺院が集まり、三十年前(昭和五十七年)に結成しました。現在は十七名の部員で構成しています。

主な活動として、毎月定期例学習会や年に二回の研修会、近年は福井別院の報恩講にも出仕させて頂いております。しかしながら、高田門徒

如来様のお手伝い

二組

仙福寺住職 佐々木 真修

私事ですが、昨年六月十日に住職を拝命いたしました。法主殿直々に住職任命状を賜りました住職任命式の終りに、法主殿から出席者全員で次のようなお言葉を賜りました。

「任命状には私『鸞獸』の名があります。決して私の名だとは思わないでいただきたい。」

祈らない宗教

私たちの日常に「祈る」という言葉が多く使われています。ですが「祈る」ということは問題のある言葉なんです。「祈る」という字の左側、「示」は神様という字ですね。「示」は神様にいけにえをささげる台をあらわしています。浄土真宗は「祈る」ということがない宗教です。それはなぜかといいますと他力の宗旨で

の方々におかれましては、「青年部って何？見たことないけど。」という方が殆どであると思います。事実、福井別院の報恩講以外では皆様との接点をとれていない現実もあります。数年前に発行した『御仏壇のお荘厳』という冊子を御存知でしょうか？この冊子は門徒の方々にとって一

番身近な存在である御仏壇を中心にお参りの作法、仏具の意味や飾り付けなどを記しています。こういった冊子の発行も活動の一つとなっております。今年で三十周年を迎え、長い歴史を持つとともに、時代は一つの転換期を迎えようとしています。これからの高田派を担っていくという自覚を持ち、様々な活動を行っていくことが青年部の役割であると感じます。

改めて如来様の願いの重さを知らしめられた思いがしたからです。如来様のお手伝いをさせていたたくとは、如来様のお心に叶わせていたたくことだと考えております。今後、住職として様々な困難に突き当たることもありましようが、その都度、如来様の心に叶っておるのかどうか如来様の声に耳を傾けさせていたたくつつ住職の責を担ってまいりたいと考えております。

心、確信する信心を言います。ところが浄土真宗の信心は思い込むと言った信心とは全然違うんです。浄土真宗はこちらのものが一つも入る隙間がない。それで「祈る」という言葉は、こちらから神や仏に向っていく言葉ですから祈るといふ事は言わないのです。

一組 本流院住職 秦 顕乗
すからね。他力ということは私の方のものは爪の垢ほども混えないということ、ですから信心でもそうなんです。他力の念仏にはこちらのもは一切入らず、法のままが私を場所にしてはたらいっているのが信心や念仏ですから私の手垢のついたものではないのです。

一般の信心は皆思い込む信



報恩講にご参詣ください。

報恩講は、真宗寺院及び檀信徒において最も大切な法要行事です。宗祖・親鸞聖人の御命日11月28日を中心として営まれ、聖人の徳をたたえ、恩に報いる法要です。

真宗高田派 専修寺 福井末寺 平成24年度報恩講ご案内

月・寺院名・組・住所・会期の順に掲載
お近くの高田末寺へもぜひ、お参りください。

6月	8月	9月	10月	11月
慈照寺 ② 福井市尼ヶ谷 第4日曜日	願生寺 ② 福井市鮎川 24~26日 <small>来年度は10月13日16日</small>	勝鬘寺 ② 福井市風尾 5~6日 浄善寺 ③ 福井市鹿保 第3日曜日 鳳生寺 ① 三国町覚善 18日 信行寺 ① 三国町山王 27日 稱名寺 ② 三国町黒目 28~29日 願正寺 ① あわら市北潟 29日 西方寺 ③ 福井市縫原 29~30日	西光寺 ① あわら市中川 2~3日 榮照寺 ③ 大野市牛ヶ原 3日 常楽寺 ① 三国町加戸 5日 松樹院 ① 三国町嵩 6~7日 真浄寺 ③ 大野市庄林 8~9日 安養院 ① あわら市二面 10日 勝願寺 ① あわら市北潟 10日 法光寺 ③ 福井市枋泉 10~11日 勝久寺 ② 三国町山岸 11~12日 圓光寺 ① 三国町梶 12日 稱名寺支院 ③ 福井市御幸 12~13日 光照寺 ② 越前町三崎 13~14日 <small>来年度は10月16日17日</small> 要願寺 ① あわら市北潟 16日 聖徳寺 ③ 福井市味見河内 17~18日 法性寺 ① 福井市小丹生 20~21日 法圓寺 ① 三国町北本町 21日 教林寺 ② 三国町新保 23日 遠成寺 ① 三国町南本町 25日 稱名寺 ③ 福井市折立 25~27日	本流院 ① 三国町加戸 1日 大願寺 ② 三国町米納津 1~2日 勝光寺 ① 坂井町上兵庫 2日 正行寺 ③ 福井市西天田 2~3日 願教寺 ① あわら市北潟 3日 仙福寺 ② 福井市足羽 3~4日 寶幢寺 ② 三国町黒目 5~6日 珠光寺 ② 福井市南菅生 7日 専福寺 ③ 大野市友兼 8~9日 寶林寺 ① 三国町神明 9日 願教寺 ① 三国町浜地 10日 西生寺 ③ 福井市折立 10~11日 勝林寺 ③ 福井市小幡 12~13日 高田別院 福井市花堂南 14~15日

ご門徒の皆様へ
福井別院「護持費」納入のお願い
福井別院は、県下高田派寺院・檀信徒の皆様によって護持運営されております。お手次のお寺様同様、福井別院へも懇念をお寄せいただきたく、納入をお願いいたしております。

● **福井別院護持費 (二檀家・年間) 五〇〇〇円**

- 「護持費」納入方法
 - 一、地区お世話方に納入
(お世話方はお手次お寺様へ納入)
 - 二、直接、お手次お寺様へ納入
- お寺様に集まった「護持費」は一括して別院へ納入していただいております。これまで未納の檀信徒の皆様にも、ぜひ「護持費」納入をお願い申し上げます。

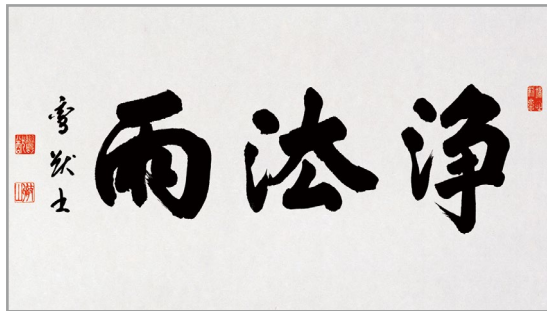
株式会社
サワザキ佛壇店
〒910-0373 福井県坂井市丸岡町高柳2-16
TEL: 0776-66-6560
FAX: 0776-67-1050

法衣・幕・旗・記念品・寺院用仏具
社寺建築・稚児貸衣装・仏壇
北山法衣仏具株式会社
〒910-0003 福井市松本3丁目13-16 (西別院前)
☎ **0120-52-1844**
TEL: 0776-25-1844/FAX: 0776-25-9108
ホームページ <http://www.kitayama.cc>
E-mail kihoui@skyblue.ocn.ne.jp
一般建設業(内装仕上工事業)福井県知事許可(般-11)第8681号

和蠟燭・薫香の製造・販売
コタイコクヤ
呉服町
小太郎
0120-22-0986
福井市順化2-15-9



「本山へ納骨を考えてますが、距離が遠いので、度々お参りに行けなくなる…」という方へ、
福井別院納骨・位牌堂（浄法雨堂）への加入ご案内



建立にあたり、ご法主より堂名『浄法雨』のご染筆を賜る

法主より堂名の
 ご染筆を戴く、
 福井別院納骨・位牌堂。

この度、ご開山聖人七五〇回遠忌記念として、新たな納骨位牌堂を建立いたしました。以前より、「福井別院にも納骨位牌堂を」のご門徒の懇望がありましたので、県下末寺の総意の下、ご法主のご賛意とご本山のご支援をいただいて建立いたしました。建立にあたり、ご法主より堂名『浄法雨』（大地を潤す恵みの雨の如く、お浄土から降り注ぐ仏法を歡ぶ）のご染筆を賜りました。

どうぞこの勝縁に、いついつまでも親しくお参りされませう、納骨位牌堂への加入をご案内申し上げます。

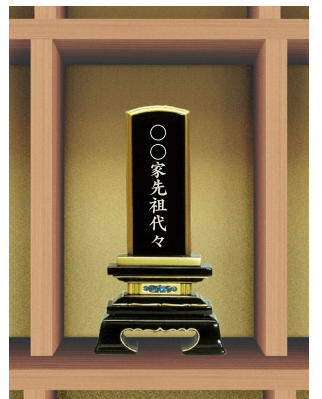
真宗高田派専修寺福井別院
 輪番 柴田 浄正



納骨壇 骨位牌堂は正面に阿彌陀如来を安置し両脇に二十四基の納骨壇。更にその左右には三百八基の位牌壇を安置。お納め頂いたお位牌が阿彌陀如来を無数の仏が囲むが如く堂内全体がお浄土を現すようになつております。



本尊両脇に設置された納骨壇は扉に豪華な装飾を施したスチール製の観音開き仕様。御遺骨をゆつたりお納めいただけます。サイズは奥行き400×高さ380×幅260（mm）



位牌壇 全三百八基

お位牌を余裕を持つて安置していただけます。ご遺骨は合葬納骨口より納骨いたします。お位牌には〇〇家先祖代々。ご希望により裏面に法名をお彫りします。サイズは奥行き117×高さ330×幅180（mm）



合葬納骨口

本尊阿彌陀如来像下の引戸内に「南無阿彌陀仏」の名号と「俱会一処」の合葬納骨口より有縁の方々を一同に安置 恭敬させていただきます。

別院納骨には次の四通りの方法がございます。

- **納骨壇安置**
扉の付いた個別区画へ納骨していただけます。
- **位牌壇安置**
ご遺骨は納骨口より合葬し別院仕様の位牌に表面「〇〇家先祖代々」裏面には「法名」をお彫りして安置します。
- **位牌安置**
右同様の仕様に安置します。
- **一般納骨のみ**
ご遺骨は納骨口より合葬させていただきます。

納骨・位牌堂冥加金	納骨壇	五十万円
位牌壇	三万円	
位牌安置	二万円	
一般納骨のみ	一万五千元	

※記載されている冥加金は変更する場合があります。予めご了承ください。

- 加入手続きに必要な書類等**
- 1 納骨壇・位牌壇使用許可書（申込者の署名捺印・所属寺院住職の署名捺印）
 - 2 納骨壇・位牌壇使用許可誓約書（申込者の署名捺印）
 - 3 加入冥加金

納骨壇加入の諸注意

- 納骨壇・位牌壇には別院の許可申請が必要です。
- 「加入手続きに必要な書類など」に記載している書類及び冥加金を添えてお申込みいただきます。
- 納骨壇・位牌壇の使用場所の指定はできません。お申込の順に使用場所の指定をします。
- 納骨壇・位牌壇の加入予約、仮押さえはできません。
- 納骨壇は墓地ではありません。分骨としてご遺骨の一部を納骨していただけます。
- 一度納められたご遺骨はお返しすることとはできません。一時的なご遺骨の保管場所ではないことに留意ください。
- **納骨壇への納骨後について**
使用している納骨壇への新たな納骨には、別院の許可を要します。
- 別院では年回、年忌等の法事のお勤めはいたしております。
- 年回、年忌等の法事以外の読経は随時受付けております。
- 納骨のお申込をいただいた後、ご位牌等の準備がありますので数日お時間をいただきます。尚、お位牌裏面の施主名若しくは法名の彫込みには別途冥加金が必要です。郵送にてお届けいたします。

納骨・位牌堂のパンフレットを希望のお檀家に差上げます。
 ご希望の御檀家に差上げます。
 お電話で福井別院までお申込みください。郵送にてお届けいたします。

納骨・位牌堂置永代供養
毎年9月15日 勤修
 納骨位牌堂ご加入のお檀家には事前にご連絡申し上げます。
 納骨に関する受け付け業務は午前9時から午後4時迄です。



真宗高田派専修寺
福井別院
 〒918-8015 福井県福井市花堂南2丁目10-35
 電話:0776-35-2299/FAX:0776-35-2291
 Mail:fukuitakadabetsuin@orange.plala.or.jp

福井別院年間法要
 1月:御正忌/3月:春季彼岸会/5月:宗祖聖人降誕会/7月:永代経
 9月:納骨位牌堂法会・秋季彼岸会/11月:報恩講



福井別院にご参詣ください。